

鹿児島の植物 62

浜辺の植物

植物担当 久保 紘史郎

浜辺で植物を観察する機会はありませんが、よく見ると美しい植物がたくさんあります。人里では見かけない浜辺の植物を紹介します。

ハマボウ（アオイ科）

河口付近の干潟の奥に生育する。7～8月頃黄色い花を咲かせる。学名は *Hibiscus hamabo* でハイビスカスの仲間。

干潟に生育する樹木としてはヒルギの仲間が群生するマングローブ林が有名だが、ハマボウはマングローブ林より陸地に近い場所に群落をつくる。南さつま市の万之瀬川の河口干潟には約1 km に渡って1000株以上が日本最大規模の群落をつくっている。この群落は国の天然記念物に指定されている。



ネコノシタ（キク科）

猫好きの人は一度覚えたら忘れない植物。葉は厚くかたい毛が生えている。ザラツとする感じが猫の舌にそっくり。8～10月に黄色い花を咲かせる。花の形が車輪に見えることから別名をハマグルマという。



ハマゴウ（シソ科）

砂浜に茎を這わし青紫色の花を7～9月に咲かせる。葉や茎は製油成分を含み芳香があるため線香やお香の原料として用いられた。浜辺に生えて香りがあることから浜香（はまごう）とされる。



ハマナデシコ（ナデシコ科）

茎の上部にピンクの花が密集して咲くので見応えがある。暑さに強く育てやすいため園芸品としても人気があり民家に植えられていることもある。葉は肉厚で光沢が強い。花の色が藤色にも見えることからフジナデシコの別名もある。



ハマエンドウ（マメ科）

砂浜に自生し4～7月頃紅紫色の花を咲かせる。花や葉は畑で栽培されるエンドウにそっくり。実も小さめではあるがよく似ている。若い実は柔らかく食べられるが、本物のエンドウの味にはかなわない。



ハマダイコン（アブラナ科）

4～6月頃花を咲かせる。名前の通り浜辺に生える大根の仲間。奈良時代かそれ以前に中国から渡来した大根が浜辺で野生化したという説や、元々日本に自生していたという説などがあるが真相は謎である。根は普通の大根のように1本だけ太くなるのではなく、いくつもの細い根に枝分かれする。畑に植えて肥料を与えると若干太い根にはなるが食用にはならない。

